

派遣者番号	R4J03	氏名	豊田 佐和子
研究主題 —副主題—	1人1台端末を活用した対話的な学びと 自己意識・他者意識の変容に関する事例研究		
派遣先大学	東京学芸大学教職大学院	指導担当者	高橋 純
所属	東京都立国立高等学校	所属長	宮田 明子

キーワード： 1人1台端末 対話的な学び 自己意識 他者意識 現代の国語

要旨： 「現代の国語」の授業において一人1台端末を活用した対話的な学びを実施し、学習者の対話的な学びに対する意識と自己の内面への意識、他者からみた自己の内面への意識、他者の内面への意識の変容を検討した。その結果、対話的な学びは、学習者に肯定的に受け止められ、自他の内面への意識の変容に寄与する可能性が示唆された。

1. はじめに

対話的な学びは、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めるもので（文部科学省 2016）、自己と他者の観点を作り出す（溝上 2023）。

自他に対する意識である自己意識・他者意識は、自己に対する意識、他者から見た自己に対する意識、他者に対する意識の3つの尺度と、内面への意識の因子と外面への意識の2因子から成る（津田 2010）。自己の考えを広げ深めることを目指す対話的な学びでは、このうち特に自他の内面への意識（自己の内面への意識、他者から見た自己の内面への意識、他者の内面への意識）の変容が期待される。そこで、本研究では、高等学校の国語科において、教室内外の様々な他者との対話として、対面での話し合いに加え、一人1台端末を活用した他者の記述の参照、生成AIの回答の参照等を含めた対話的な学びを実施し、自他の内面への意識の変容を検討する。

2. 方法

進学指導重点校に指定される高等学校第1学年3学級（121名）を対象に2023年10～12月、「現代の国語」の授業で実践した。溝上（2023）をもとに、自他の相違を生む学習課題を設定し、①意見の話し合い、②解答の話し合い、③意見の参照（端末活用）、④解答の参照（端末活用）、⑤生成AI参照（課題について授業者が生成AIに尋ねた結果を参照）、⑥文章読解、⑦インターネット参照（端末活用）を行った（表1）。

なお、「意見」は自由度の高いもの、「解答」は答えが想定されるものを指す。

全授業の終了後、質問紙調査を実施した。それぞれの対話的な学びに対する意識として「A楽しかった」「B主体的に取り組んだ」「C理解が深まった」について、津田（2010）をもとに自己の内面への意識、他者から見た自己の内面への意識、他者の内面への意識の変容について、それぞれ5件法（5：そう思う、4：ややそう思う、3：どちらともいえない、2：ややそう思わない、1：そう思わない）で尋ねた。生徒同士の相互作用や協働を活用した学習は、能動的な取り組みにより、学習意欲の向上や思考の深まりをもたらす実質的なものとなるため（熊谷 2020）、対話的な学びに対する意識を尋ねることで、対話的な学びが促進されたかを測る指標とする。

3. 結果と考察

質問紙調査の有効回答数は118であった。対話的な学びに対する意識に関する記述統計を表2に示す。平均値は全項目で4を上回り、どの活動も「楽しかった」、「主体的に取り組んだ」、「理解が深まった」と評価された。対話的な学びは、その種別を問わず、肯定的に受け取られており、実質的な学習として機能していたと考えられる。

自他の内面への意識の変容に関する記述統計を表3に示す。平均値は全項目で理論的中央値3を上回り、学習者が自他の内面への意識の変容を実感する傾向が見られた。また、他者の内面への意識、他者から見た自己の内面への意識、自己の内面への

表1 授業の概略

学習課題	対話的な学び						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
読むこと イ							
自分にとって東京・沖縄・イスラームとは	●		●		●		
「海をあげる」（上間陽子 2020）を読んで			●				
教科書掲載「開かれた文化」（岡真理 2001）		●		●		●	
「サウジアラビア訪問記」（池上彰 2023）を読んで			●				
読むこと エ							
自分にとってリスクとは	●		●		●		
教科書掲載「リスクと近代社会」（大澤真幸 2008）		●		●		●	
書くこと ア							
自分の愛する対象の魅力を論理的に述べる	●		●				●

意識の順に高く、対話的な学びは、他者の内面への意識や他者から見た自己の内面への意識を特に高めることが示唆された。

表2 対話的な学びに対する意識の記述統計

項目		<i>M</i>	<i>SD</i>
① 意見の話し合い	A 楽しさ	4.74	0.51
	B 主体性	4.48	0.65
	C 理解促進	4.71	0.47
② 解答の話し合い	A 楽しさ	4.48	0.69
	B 主体性	4.49	0.62
	C 理解促進	4.65	0.53
③ 意見の参照	A 楽しさ	4.38	0.79
	B 主体性	4.53	0.65
	C 理解促進	4.58	0.60
④ 解答の参照	A 楽しさ	4.42	0.86
	B 主体性	4.49	0.68
	C 理解促進	4.60	0.64
⑤ 生成AI参照	A 楽しさ	4.72	0.55
	B 主体性	4.31	0.82
	C 理解促進	4.45	0.67
⑥ 文章読解	A 楽しさ	4.29	0.83
	B 主体性	4.56	0.55
	C 理解促進	4.64	0.53
インター	A 楽しさ	4.53	0.66
⑦ ネット参照	B 主体性	4.51	0.62
	C 理解促進	4.51	0.70

4. まとめと今後の課題

「現代の国語」における一人1台端末を活用した対話的な学びは、学習者に肯定的に受け止められ、自他の内面への意識の変容に寄与する可能性が示唆された。本研究は、高等学校の国語科で実施した一事例で、その結果は限定的なものにすぎない。また、対話的な学びを複数取り入れており、各学習活動が自他の内面への意識の変容に与えた影響の程度については明らかにできていない。今後、各々の学習活動が及ぼす影響について自他の内面への意識の変化を詳細に調査していきたい。

参考文献

- 熊谷圭二郎・河村茂雄 (2020) 協働的学習に対する生徒の意識に関する研究—修正版グラウンデッド・セオリーを用いて—, 学級経営心理学研究, 9 : 19-29
- 溝上慎一 (2023) 自己論の観点から見る対話的な学びと個性的なライフの構築. 教育システム情報学会誌, 40(4) : 271-280
- 文部科学省 (2016) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)
- 津田恭充 (2010) 視点別意識尺度の作成とその信頼性・妥当性の検討. カウンセリング研究, 43 : (1) 22-32

表3 「自他の内面への意識の変容」の記述統計

項目	<i>M</i>	<i>SD</i>
自己の内面への意識		
1 自分の心の動きを理解しようとするようになった	3.86	0.95
2 自分の気持ちや感情の変化に注意を向けていることが多くなった	3.80	0.93
3 自分の性格をよく理解しようとするようになった	3.87	0.91
他者からみた自己の内面への意識		
4 自分の心の動きが他の人にどう捉えられているか理解しようとするようになった	4.01	0.92
5 自分が何かしたとき、その動機を他の人がどう分析するかに興味をもつようになった	4.02	0.92
6 心の中で考えていることが他の人にどのように分析されているかに興味をもつようになった	4.04	0.93
他者の内面への意識		
7 他の人の心の動きを理解しようとするようになった	4.22	0.87
8 他の人の性格をよく理解しようとするようになった	4.16	0.91
9 他の人が心の中で何を考えているかを分析することが多くなった	4.21	0.91